

(規則) 様式第 7 (第 7 条関係)

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

令和 6 年 8 月 9 日

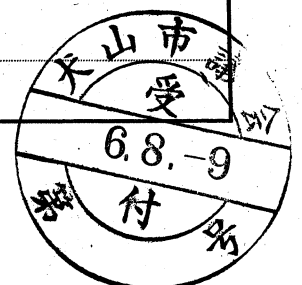
犬 山 市 議 会

議 長 柴田 浩行 様

議員名 大沢 秀教

下記のとおり、視察調査の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和 6 年 7 月 29 日 (月) ~ 令和 6 年 7 月 31 日 (水) (2 泊 3 日)
(2) 場 所	宮崎県日南市、鹿児島県霧島市、鹿児島県南九州市
(3) 形 態	会派 (創犬会) : その他 ()
(4) 内 容	・ 視察地ごとに、別紙にて報告します。
(5) 成 果 ・ 提 言	・ 視察地ごとに、別紙にて報告します。



政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

犬山市議会 議長 柴田 浩行 様

犬山市議会議員 大沢秀教

下記のとおり、視察調査の成果を報告いたします。

調査日時：令和 6 年 7 月 29 日（月）

訪問先：宮崎県日南市

形態：会派視察（創犬会）

調査項目：「IT企業誘致の取組について」

調査の内容

犬山市の姉妹都市である宮崎県日南市を、市議会の会派として公式に訪問するというのが、今回の行政視察の大きな目的の一つであった。視察に際しては、濱中議長と前田副議長にお出迎えをいただき、丁重な歓迎を受けた。

調査項目の「IT企業誘致の取組」については、商工政策課の職員から説明をいただいた。この取組は崎田前市長時代の積極的な政策ではあったが、令和 3 年度末で市の事業としては区切りをつけたものであるということを頭に入れて説明を受けた。

日南市は 2013 年に崎田前市長が誕生して以降、持続可能な地域づくりを目標とし、若年層の流出阻止やUターンの増加を指針として事業が始まった。その一つが「企業誘致」であった。若い人が求める事務職を誘致することで、求職と求人のバランスを取ること、また、シャッター商店街となっていた油津商店街の再生をセットで行うことを目指した。結果的に、地方中小都市である日南市への進出に反応があったのが中小・ベンチャーIT企業であったため、IT企業のサテライトオフィスを積極的に誘致する施策が進められた。

2016 年 4 月に 1 社目の企業が進出したのを皮切りに、2022 年までに 13 社のIT企業が油津商店街に進出した。

犬山市への提言

犬山市においても、空き店舗等の活用と合わせてIT企業を誘致しようという提言は議会でも行っており、民間でも積極的に進められている取り組みだと理解している。我々もコロナ禍の時代を経験し、この間にはリモートワークの可能性について知り、体験することもできたため、日南市の取組は参考事例とすることができる。犬山市としても、持続可能性を考えた誘致活動を行う地道な努力が必要だと考える。地方都市であっても、サテライトオフィス誘致合戦を勝ち抜くことはできると考える。であるからこそ、犬山市の魅力を積極的に発信し、仕事だけではなくシティブロモーションも重要だと考える。

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

犬山市議会 議長 柴田 浩行 様

犬山市議会議員 大沢秀教

下記のとおり、視察調査の成果を報告いたします。

調査日時：令和6年7月30日（火）

訪問先：鹿児島県霧島市

形態：会派視察（創犬会）

調査項目：「定住促進の取組について」

調査の内容

霧島市は平成17年に1市6町が合併して発足した新しい自治体である。約603㎢という広大な面積に、人口は約12万3千人という市で、風光明媚なバランスのいい市ではあるが、合併前の旧市町それぞれの課題がある。旧国分市、旧隼人町は、鹿児島市につながる市街地を有し、人口も多く集中しているが、その他の中山間地域の人口減少は激しく、対策が急務となっている。

中山間地域の人口減少対策は合併翌年の平成18年から始まっており、地域活性化グループが担当している。現在は、その取組＝ふるさと移住定住促進補助制度も第5期を迎えており、今回の視察では、多くの事例をご紹介いただいた。

移住補助金は、中山間地域への移住に対して、より手厚く対応がなされる。また、賃貸住宅の家賃補助もある。そのため、30代夫婦の移住が多いという。30代に向けた取組として、オンラインZoomを活用した移住相談会を行ったり、移住者との交流をメインとした移住体験ツアーを行ったり、移住希望者のニーズに合わせたオーダーメイド型移住体験ツアーを行ったりと、本気のサポートを、市の職員（地域政策課地域活性化グループ）が直接行っていることが特色である。

犬山市への提言

犬山市においても、「住むまち いぬやま」を目指して移住定住促進を掲げているので、この霧島市の政策は、大いに参考にすべき取組だと考える。霧島市の施策を様々紹介していただいて感じることは、どの事業も移住定住希望者のナマの声に接し、そこから政策を手厚く組み立てているということである。

生活環境編、住まい編、子育て編、就労編、起業編、就農編と、市の各担当課との連携も密にし、霧島市への移住を全力でバックアップするという本気度を感じるのが霧島市の取組である。

犬山市もまちの持つ魅力や利点は霧島市に負けるものではないので、他の先進事例も参考にして、犬山版の移住促進施策を高めてもらいたいと期待する。

政 務 活 動 費 成 果 報 告 書

犬山市議会 議長 柴田 浩行 様

犬山市議会議員 大沢秀教

下記のとおり、視察調査の成果を報告いたします。

調査日時：令和6年7月31日（水）

訪問先：鹿児島県南九州市 知覧特攻平和会館

形態：会派視察（創犬会）

調査項目：「平和教育について」

調査の内容

1. 知覧特攻平和会館の視察見学

犬山市で長年の間、平和教育の講話を行っていた故板津忠正さんが、この平和会館の前身の資料館の初代館長だったご縁で、我々会派の視察を受け入れていただいた。私は板津さんの活動を数度拝見させていただいたが、戦争の現実を、特攻隊員としての体験を通して後世に伝えることの尊さを感じさせていただいた強烈な記憶があるため、念願の訪問である。板津さんが全国を回って集められた遺品や手紙などの資料の実物をはじめ、様々な工夫された展示物を見せていただき、万感胸に迫る思いであった。

現館長から、これまでの平和会館の概要や、全国各地からの視察や見学のために来訪される状況等をお聞きし、平和教育を後世に伝えつづけていくことのたいせつさを勉強させていただいた。

2. 戦争と特攻について、「語り部」の話を聞かせていただく

我々犬山市議会の視察団は9名で、しかも平均年齢50歳を超えるメンバーだったにもかかわらず、「語り部さん」の講話を拝聴させていただくことができた。まさに私たちが目的とする平和教育の後世への伝達のための講話を実体験させていただいた。お話しいただいた「語り部」の桑代さんのお母様は、特攻隊員の身の回りの世話をし、出撃を見送った高等女学校の生徒だった方だそうで、その体験を伝え聞いた2世の世代の方であるが、その語りは見事で、心に響くものだった。

犬山市への提言

過去の戦争の悲惨な事実から学びを得ることは、市内の子どもたちにとって重要なことである。戦争体験者が少なくなり、実体験を語っていただく形だけでは続けるのにも限界がある。資料や文献、関連図書などを活用した平和教育も研究していったほしい。故板津様のご家族から寄贈いただいた本を活用し、犬山の学校教育の中での平和教育を行っていただきたい。